

景況調査

(平成25年1月～3月期)

平成25年1月～3月期の守山企業景況調査の結果は、次の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成25年1月～3月期の調査結果では、業況と採算(経常利益)では大きな変化が見られないものの、売上高と資金繰りで変化があった。売上高は前回調査の▲22.4から▲7.2へ指数が上昇し、資金繰りも▲15.9から▲4.9と指数が上昇した。

〈業況〉

業況DIは▲20.9と前回調査に比べて1.8ポイント上昇した。業種別では、小売業が1.8ポイント上昇の▲35.0、製造業は40.9ポイント下落の▲50.0、建設業が33.3ポイント上昇の▲33.3、サービス業が41ポイント上昇の▲22.2、卸売業が13.3ポイント上昇の▲20.0であった。製造業が大きく落ち込んだが他の業種は上昇であった。4～6月期の見通しは、全体で▲11.5と1～3月期の実績から9.4ポイント上がっている。

〈売上高〉

売上高DIは▲7.2となり前回調査より15.2ポイント上昇している。業種別では、小売業が▲30.0と20ポイント上昇、製造業が▲25.0と23ポイント上昇、建設業が50.0と32.8ポイント上昇、サービス業が▲

15.0と11.3ポイント上昇、卸売業が20.0と3.3ポイント上昇となっており、全業種で指数が上昇した。

4～6月期の見通しは、▲10.3と3.1ポイント下降している。小売業と製造業の指数は上昇見通しとなっているが、その他の建設業、サービス業、卸売業の指数は下降している。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲34.8と前回調査に比べて25ポイント上昇している。業種別には、小売業が▲45.0で5ポイント上昇、製造業が▲66.7と39.4ポイント下降、建設業が0.0で9.1ポイント下降、サービス業が▲20.0で32.6ポイント上昇、卸売業が▲60.0で10ポイント下降であった。4～6月期見通しでは、全体で▲27.7と1～3月期の実績に比べて7.1ポイント上昇となっている。製造業と卸売業が上昇見通しでその他の小売業、建設業、サービス業は下降見通しとなっている。

〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲4.9と前回調査に比べて11ポイント上昇している。業種別では、小売業が41.5ポイント上昇の▲5.9、製造業が10ポイント上昇の0.0、建設業が横ばいで0.0、サービス業が11.5ポイント下降の▲5.9、卸売業が3.3ポイント下

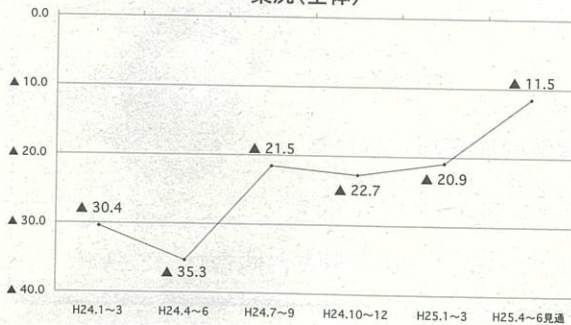
降の▲20.0となった。

4～6月期見通しでは、▲6.8と1～3月期の実績に比べて1.9ポイント下降となっている。製造業と卸売業の指数は上向くものの、その他の小売業、建設業、サービス業の指数は下降となっている。

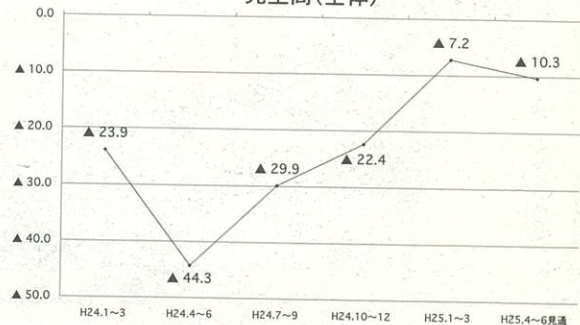
〈その他の意見〉

- ・ 円安で原材料の値上げがあるがその分を商品価格に乘せられていない。今後の課題になりそうである。
- ・ 材料仕入れ単価が上昇し、このまま消費税が上がれば…と危機感を感じる。PPP参加で少しでも材料が下ってくればよいのだが。
- ・ 4月からの電気料金の値上げが痛い。円安により原料の高騰、利益の圧迫がある。
- ・ 2月・3月が思ったより悪化した。原因として、住宅関連では大工等の人材不足がある。
- ・ 駆け込み需要も人材不足と相殺されて、特に関西以西では期待できない模様。
- ・ 中小の製造業はまだまだ厳しさが続きそう。
- ・ 作られた景気はいずれ破綻する。堅実な政治、経済の運営をして欲しいと思う。
- ・ これからの30年は、少子高齢化、環境エネルギー、グローバルがキーワードと耳にしたので、日本がPPP参加をした後の戦略施策が非常に重要になってくると思う。

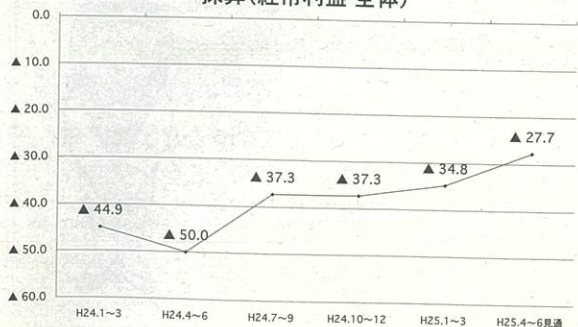
業況(全体)



売上高(全体)



採算(経常利益 全体)



資金繰り(全体)

